

お茶の水女子大学附属幼稚園の取り組み

～つながりの中で育ちあう子どもと教師～

日本で最初の官立幼稚園として1876年に誕生した本園は倉橋惣三の「自然の中で生活し、自然に親しむ」を大切に、自然豊かな園庭と意匠を凝らした園舎環境を継承しつつ、環境を通した教育の探究を重ねてきている。

倉橋惣三は、幼児教育の特色は自発的、相互的、具体的、情緒的であるとする。この相互的教育の考え方からも生活の中での「つながり」を大切にしている。

本園は、平成28年度に創立140周年を迎えた。



「鳩ノ巣遊戯図」
草創期の教育は諸外国の協力に負うもので、国際性が特色であった。

○教育

- ・遊びや生活を中心においた幼児教育
人生教育の基本となる根の力(主体的に考え、判断し、行動する力)を育てる。
- ・教師の連携を重視した幼児教育
保育者間の連携が密にはかれる体制を確保し、子ども理解を共有化する。
- ・保護者のボランティアとしての教育参加

○研究

- ・伝統を大事にしながら、先見性をもって今日的な課題に取り組む。

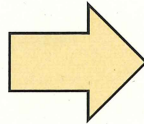


平成27年度文部科学省委託

「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究」

平成29年度

研究テーマ「子どもの内にある感受性を探る～2年次～」



歴史

オールお茶の水

異校種とつながる

大学
他附属

子ども

保育者

保護者

3園

3園がつながる

地域

世界

世界とつながる

・連携研究会

幼稚園、小学校、中学校、高校、大学のメンバーで構成

平成13年度より幼小、幼小中連携研究から継続している。H29年度は9部会。幼稚園は「自学・自主研究」「表現」「子どものこころと発達」の3部会に所属。異校種の教員との交流を通して、子どもの自ら遊びに取り組む生活の意義について探究し、卒園後の子どもの成長を見通す。

・リケジョ・プロジェクト

大学／理系女性教育開発協働機構との連携

子どもの理数系への興味関心を引き出すねらいで、平成28年度より保護者向けサイエンス研修会(学習会と体験型施設見学)を実施。また図鑑や観察道具類の充実についても協力を得ている。

・諸外国からの視察・保育 参観受け入れ

フィリピン、韓国、中国、イタリア、スリランカ、中西部アフリカ9カ国等(H29年度10月)

視察や参観後の話合い、情報交換など互恵的な学びの時間をもち、インタビューに応じることも行っている。教員が中国からの招聘を受けて、大学教員と共に講演する機会をもった。

・研究紀要 英語版の作成

平成24年度 探究力・活用力が発揮される生活～2年次～「道具」

・3園合同研究会

幼稚園、いずみナーサリー、文京区立お茶の水女子大学こども園で構成

公開保育やシンポジウムなど、相互に参加し合ったり、合同で企画したりする。0歳から6歳までの育ちを保育者が学びあう。施設の違いを超えて、子どもを中心に置いた生活を探究している。

・アート実践研究会

幼稚園、いずみナーサリー、こども園、小学校、中学校、大学で構成

生活と表現に関する「ライフ×アート展」で展示やワークショップ等を行った。写真は幼稚園が展示した「四季を楽しむ暮らし」展示コーナー。



(お問い合わせ先) 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

tel:03-5978-5881 fax:03-5978-5882 <http://www.fz.ocha.ac.jp/fy/>

副園長：上坂元 絵里